

文化財センター通信

【かざぐるま】

風車

第 35 号

平成19年6月7日発行



紀州の歴史と文化の風

財団法人 和歌山県文化財センター

京奈和自動車道（紀北東道路）遺跡発掘調査 その2 西飯降 遺跡、丁の町・妙寺遺跡

和歌山県文化財センターでは京奈和自動車道（紀北東道路）建設に伴い、約一万八千平方メートルに及ぶ発掘調査を平成18年5月から同19年3月まで実施しました。本調査は紀北地方、紀ノ川流域で行った発掘調査では最大規模といえます。当調査地は伊都郡かつらぎ町妙寺に所在し、東側に西飯降 遺跡、西側に丁の町・妙寺遺跡にまたがっています。西飯降 遺跡は縄文時代から古代、丁の町・妙寺遺跡は弥生時代から中世の遺物の散布地として知られています。

調査の結果、検出された主要遺構としては弥生時代と古墳時代の集落、古代の水田跡があります。弥生土器、古墳時代の土器、古墳時代の下駄など豊富な遺物も出土し、かつらぎ町の歴史が明らかになりつつあります。風車30号では前半部の調査成果を取

り上げました。今号ではその後に見つけた新資料などの成果を中心に、平成18年度調査のまとめを報告します。

【弥生時代中期の遺構】

西飯降 遺跡で5棟、丁の町・妙寺遺跡で3棟の竪穴住居が見つかりました。平面形は大半が円形（写真5372住居）で、直径約8m前後の大きさです。2B1区では方形住居が1棟検出され、一辺4mと円形に比べて小型の住居です。住居にはいずれも中央に炉を設置しています。弥生時代中期の竪穴住居は他遺跡でも平面円形が一般的で、後期になると方形住居が増加していきます。西飯降 遺跡の集落の西側は方形周溝墓や土器棺墓が点在し、墓域として利用されていたようです。方形周溝墓の棺を納めた主体部の墳丘は後



2 B 1 区全景

- 第35号の主な内容 -

1. 京奈和自動車道（紀北東道路）遺跡発掘調査 その2
 - ・西飯降 遺跡
 - ・丁の町・妙寺遺跡
2. 新人紹介 2007
～埋蔵文化財課～

世に削られたため遺存しておらず、周溝を検出しました。周溝から弥生土器が出土していますが、供献土器に相当するものはみられません。土器棺墓は方形周溝墓に隣接して配されています。棺に甕や壺を再利用し

たもので、割れた土器を蓋にしたものもあります。生駒西麓産の胎土たいどを持つ土器もあり、河内との交流がうかがえます。

【古墳時代後期の遺構】

古墳時代後期になってまた竪穴住居が作られます。この時期の住居は方形で壁際にカマドを付設していません。建物の一部が炭化した焼失家屋が1棟（写真 5089住居）見つかりました。火災のために持ち出せなかったと思われる土器が建物の床面に残っていました。住居のほかに



5372住居

は川跡が見つかっています。川からはたくさんの土器や下駄などの木製品が出土しています。廃棄されたものかも知れません。

【古代の遺構】

調査区の東側と西側はやや微高地となり弥生時代や古墳時代の集落が営まれていることがわかりましたが、集落にはさまれた低地部分では平安時代前期の水田跡（写真）が見つかりました。水田には南北方向の水路と東西方向の畦畔けいはんが作られています。この水路と畦畔は地図上で復



5089住居

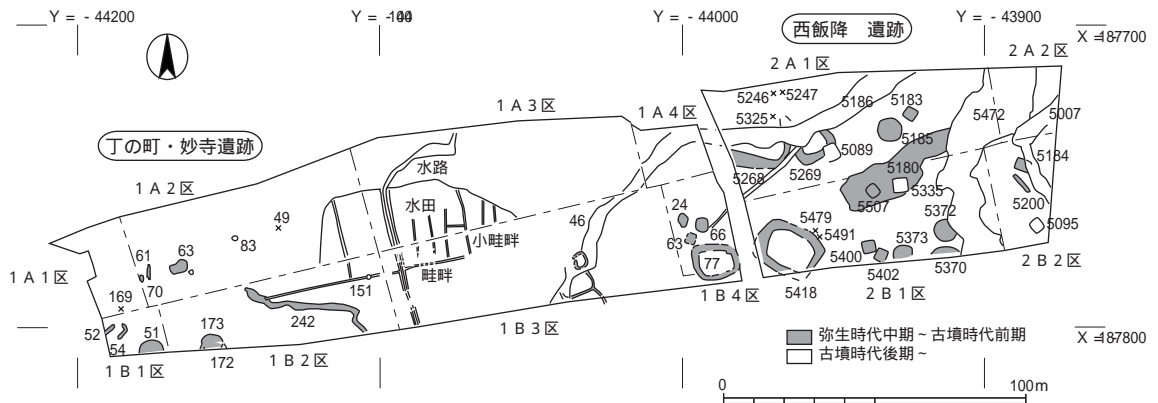
元される条里型地割に一致します。妙寺条里区やその周辺の条里はこれまで高野山の官省符莊かんしょうふのしょうの成立に伴って、古代末期から中世にかけて作られたと想定されていますが、平安時代前期にはすでに水田開発が行われていたことがわかりました。県内では最古の条里型地割の検出例となりました。

【絵画土器】

弥生時代中期の5180溝から絵画土器が2点出土しました。壺の肩部分に角がない鹿1頭を左向きに線



古代の水田跡



京奈和自動車道（紀北東道路）発掘調査 遺構分布図（1/2,500）



絵画土器

刻した土器が1点(写真)。もう1点(写真)は、受け口状口縁の縁部部に角のある鹿1頭と角のない鹿1頭を右向きに線刻しています。鹿は角を描く状況からオスとメスと考えられます。2点の絵画土器は同一個体である可能性もあります。線刻は非常に細く鋭いヘラで描いています。金属製工具かもしれません。弥生時代の絵画土器は全国で600点余り出土しており、奈良県の唐古・鍵遺跡での出土が350点以上、それと近接する清水風遺跡での出土



絵画土器

が50点ほどと、全国での出土量の過半数を占めています。土器に描かれる題材として最も多いのは鹿で半数、次いで建物、鳥、人物の順となります。絵画土器は、弥生時代のまつりと関連づけられて論じられることがあります。2点の絵画土器も、大和から搬入された土器の可能性もあります。和歌山県内では和歌山市太田・黒田遺跡、田辺市水取山遺跡に次ぐ3遺跡目の出土となります。【磨製石剣】弥生時代中期の5373住居から



磨製石剣

完形の石剣(写真)が出土しました。材質は粘板岩で、刃先部分を中心によく磨かれた精良品です。磨製石剣は近畿地方を中心に多数出土していますが、そのほとんどは破片の状態です。和歌山県内でもこれまで数例しか出土していません。【下駄】1B3区 of 古墳時代後期の46溝から下駄(写真)が見つかりました。下駄は台と歯を1本の木から削りだした連歯式です。現代の形状と近似していますが、鼻緒の位置が中央で



古墳時代後期の下駄

はなく左に寄ってあけられ、右足用とわかります。下駄は5世紀頃に中国から伝来したといわれ、鼻緒の位置や歯の形状は古い形態を残していません。この時代の下駄は日常の履物ではなく、祭祀に用いられたと思われます。古墳時代の下駄としては和歌山県内で初見例です。樹種はコウヤマキの柱目材です。田下駄も6溝から1点出土していますが、同じくコウヤマキです。調査地周辺の山から容易に手に入る木材だったのでしょう。(前田 義明)

新人紹介

2007

今年度、埋蔵文化財課・文化財建造物課では、新たに七人の正規職員・専門調査員を迎えることになりました。今回は埋蔵文化財課の新人三人に抱負などを語ってもらいました。



下駄実測中の富永さん

5月より文化財センターにて、埋蔵文化財課の技師として働かせていただきます。

これまで、京都府立大学で考古学を学んだ後、奈良文化財研究所や静岡県浜松市で非常勤職員として、埋蔵文化財の発掘調査に携わり、このたび、縁あって和歌山に就職することができました。

和歌山では、豊富な文化遺産が、観光資源としてだけでなく、生活の中で息づいています。また、古くからの街道筋の家並みや、昭和の面影を残す町並みにどこか懐かしさが感

じられます。そのような魅力的な土地で働くことに喜びを覚えています。

(技師 富永 里菜)

5月から和歌山県文化財センターにて技師として採用されることとなりました。田中元浩です。立命館大学、立命館大学大学院にて考古学を勉強するかたわら、京都周辺の調査機関や大学の調査等で発掘調査の経験をさせていただきました。

主な研究テーマとしては古墳時代の土器について勉強してきました。和歌山県には、全国的に見ても興味深い考古資料が多く出土します。そ



田下駄実測中の田中さん

んな和歌山に住んでいたであろう、皆さんの先祖の足跡を掘り出し、評価していくことができたらと思っています。

至らないところがあるかと思いますが、プロとしての責任を果たせるよう一生懸命頑張りたいと思います。

(技師 田中 元浩)

今年度より当センターの非常勤専門調査員として勤務することになりました。手島芙実子です。京都橘女子大学・帝塚山大学大学院で古代瓦を中心に考古学を学び、大阪・奈良で発掘調査に参加してきました。調査員として働くのは初めてですので、至らない点もあるかと思いますが、何卒宜しくお願いします。

(専門調査員 手島 芙実子)



図面整理中の手島さん

5月・6月開始(予定)の発掘調査

- * 野田地区遺跡
- * 藤並地区遺跡
- * 西飯降 遺跡 丁の町・妙寺遺跡 (京奈和自動車道(紀北東道路) 関連遺跡第2次発掘調査)
- * 田辺城下町遺跡

《編集後記》 今号では18年度の

の京奈和自動車道調査成果を取り上げましたが、19年度も隣接地で大規模な調査が始まります。次はどのような成果があるか楽しみです。今回の新人紹介でしたが、建造物課は(前田) 次号になります。

風車 第35号

平成19年6月7日 発行

(財)和歌山県文化財センター

〒640-8404

和歌山市湊571-1

Tel: 073(433)3843

Fax: 073(425)4595

e-mail: maizou-1@wabunse.or.jp

URL http://www.wabunse.or.jp